



一般社団法人 システムイノベーションセンター
2024年度定時社員総会

議案書

開催日時 2025年3月14日（金） 11:00～12:00

開催場所 東京都新宿区西新宿8丁目17-1 住友不動産新宿グランドタワー-5F 会議室
および、オンライン出席を併用

議 題

- 1) 役員新任、再任の件 【普通決議事項：第1号議案】 p. 2
- 2) 2024年度 事業報告及び決算の承認の件 【普通決議事項：第2号議案】 p. 3
(含：2024年度監査報告)
添付資料
 - 2a) 2024年度事業報告 p. 3
 - 2b) 2024年度決算書 p. 7
 - 2c) 決算報告書(貸借対照表) p. 8
 - 2d) 決算報告書(正味財産計算書) p. 9
 - 2e) 決算報告書(附属明細書) p. 11
 - 2f) 監査報告書 p. 12
 - 附) SIC財産目録 p. 13
- 3) SIC 第3次中期計画策定の件 【普通決議事項：第3号議案】 p. 14
添付資料
 - 3a) 第3次 SIC 中期計画案 p. 14
- 4) 2025年度事業計画及び予算の報告の件 【報告事項】 p. 18
添付資料
 - 4a) 2025年度事業計画 p. 18
 - 4b) 2025年度予算書 p. 20
- 5) SIC 戦略提言発出活動の件 【報告事項】 p. 21

- (附) システムイノベーションセンター 2025年度現況 p. 25
 - a1) 会員の状況 p. 25
 - a2) 正会員 p. 25
 - a3) 学術協議会 p. 26
 - a4) 実行委員会 p. 28

2024年度 SIC定時社員総会（2025年3月14日）

【第1号議案】:役員新任、再任の件

定款22条、および、25条に基づき、下記役員（理事・監事）の新任、再任の承認を求める。なお、任期は、2025年度よりの2年間とする。

一般社団法人システムイノベーションセンター 2025年度役員（理事・監事）候補

2025/3/14 2024年度総会提出

選任区分		氏名	所属	役職等
1	再 代表理事・センター長	浦川 伸一	損害保険ジャパン株式会社	顧問
2	再 業務執行理事・実行委員長	松本 隆明	元 独立行政法人情報処理推進機構	元 顧問
3	新 理事・学術協議会主査	藤田 政之	金沢工業大学 東京工業大学	教授 名誉教授
4	再 理事	青山 和浩	東京大学大学院	工学系研究科・人工物工学研究センター 教授
5	再 理事	遠藤 薫	学習院大学	名誉教授
6	再 理事	岡本 浩	東京電力パワーグリッド株式会社	取締役・副社長執行役員
7	新 理事	鹿子木 宏明	横河電機株式会社	執行役 デジタルソリューション統括本部デジタル戦略本部長
8	新 理事	木谷 昭博	マツダ株式会社	常務執行役員兼CIO、業務イノベーション担当
9	再 理事	久間 和生	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構	理事長
10	再 理事	齊藤 裕	独立行政法人情報処理推進機構(IPA)	理事長 兼 デジタルアーキテクチャ・デザインセンター長
11	再 理事	島田 太郎	株式会社 東芝	代表取締役 社長執行役員 CEO
12	新 理事	高林 幹夫	三菱電機株式会社	執行役員 先端技術総合研究所 所長
13	再 理事	服部 正太	株式会社 構造計画研究所 ホールディングス	取締役 代表執行役
1	再 監事	舩橋 誠壽	特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合	(元) 理事
2	新 監事	新谷 勝利	早稲田大学	招聘研究員

(再：再任、新：新任)

【第2号議案】：2024年度事業報告、および、同決算書の承認の件

定款第40条にもとづき、2024年度の事業報告に関わる事項、および、決算の報告に対し、2024年度監査報告にもとづき、承認を求める。

添付資料：

- 2a) 2024年度活動報告
- 2b) 2024年度決算書
- 2c) 決算報告書(貸借対照表)
- 2d) 決算報告書(正味財産計算書)
- 2e) 決算報告書(附属明細書)
- 2f) 2024年度監査報告書

2a) 2024年度活動報告

2024年度SIC活動報告

1. 活動の概況

実行委員会、分科会活動、人材育成協議会、戦略提言サブグループ等のほとんどの活動は引き続きオンラインを中心とした形式で実施したが、ケーススタディ講座や戦略提言シンポジウム企画WG等一部の活動については対面での開催を行った。

2024年度の定時社員総会は、3月5日に開催され、本年度の活動計画、予算、役員の陣容等が承認され、本年度の活動を本格化した。また、役員の交代の承認を頂くため、4月に臨時の社員総会を開催した。

理事会は、定時社員総会の当日に第1回理事会を開催したほか、2回の臨時理事会を開催し、上記の役員交代の件と、9月にウラノス・エコシステム推進センターへの賛助会員としての入会の件とを諮り、いずれも承認された。

本年度は、昨年度に引き続き、第2期中長期計画の柱である人を要素として含む多様なシステムへのシフトに柔軟に対応していくための施策をシステムオブシステム分科会で集中的に検討するとともに、もう一つの大きな柱である我が国が抱える様々な社会課題を優れたシステムの構築によって解決するための戦略提言活動に重点的に取り組んだ。

戦略提言活動については、主な対象として以下の6つの分野ごとに戦略提言サブワーキンググループを構成し、個別の提言策定を行った。これまでに、ヘルスケア、エネルギー、科学技術の3つの分野に関する提言をまとめ、SICのホームページにおいて順次公開するとともに、残りの分野についても提言のまとめを鋭意作成中である。

- (1) ヘルスケア
- (2) ロジスティクス
- (3) 金融
- (4) エネルギー
- (5) 防災・レジリエンス
- (6) 科学技術

SIC分科会活動については、「流通とシステム化分科会」では国内における分科会参加企業における流通分野事業の現状と課題、海外における標準化やデータ連携基盤の動向について調査を行い、その結果に基づいた活動報告書を作成中である。また、「システムオブシステム分科会」では、分科会主査の強いリーダーシップのもと人を要素として取り込んだシステムのモデル化や将来像について議論を深め、今年度末を目途に報告書をまとめている。

SIC人材育成協議会では、一昨年度に引き続き第2回の「現代システム科学連続講座」を開

2024年度 SIC定時社員総会（2025年3月14日）

催するとともに、ケーススタディ研修や特別講義を実施した。

また、学会員によって構成される学術協議会の総会を開催し、SoSシステム、SIC戦略提言活動、ウラノス・エコシステム推進センター活動などについての話題提供があり、総合的な質疑応答を行い学会員からコメントを頂いた。

SIC会員へのシステム化に関する啓蒙を図る「SICフォーラム」を、今年度は8回開催した。

2. 実行委員会の活動

昨年度に引き続き以下の日程で毎月1回、計12回の委員会をオンラインで開催した。各回とも20人近い委員の方々に参加いただき活発な議論を行った。

1月24日、2月20日、3月19日、4月23日、5月21日、6月18日、7月23日、
8月27日、9月25日、10月22日、11月19日、12月17日

実行委員会では、分科会や戦略提言等の活動状況について委員間で状況を共有し、今後の進め方等について議論を行うとともに、SICフォーラム、研修講座、戦略提言シンポジウム等のイベントの企画と進め方についても継続的に議論を行った。また、今年度設立されたウラノス・エコシステム推進センターとの連携の進め方、SNSを通じた広報活動の推進方法等についても議論を行った。中期と期末にはSIC事務局から予算の執行状況と執行予定を報告するとともに、円滑な予算執行に向けて委員間で議論を行った。

3. 分科会の活動

「流通とシステム化分科会」では、分科会参加企業における流通分野事業の現状と課題、海外におけるユニットロード化やコード体系等の標準化の動向やGAIA-XやCPFR等欧米を中心に急速に広がりつつあるデータ連携基盤の動向について調査を行い、その結果に基づいた活動報告書を作成中である。

「システムオブシステムズ分科会」は前述のとおり、人を要素として取り込んだ多階層のシステムのモデル化や将来像を題材に、SoSの考え方について議論を深め、今年度末を目途に報告書をまとめている。

4. 人材育成協議会の活動

人材育成協議会主催のもと、以下の活動を実施した。

(1) ケーススタディ研修講座

「SKYACTIV TECHNOLOGYによるクルマづくりのブレークスルーに学ぶ」と題して、11月22日・23日に開催。

【受講者数】 13名

(2) 学術協議会特別講義

・第7回（4月23日） 稲見昌彦氏（東京大学）

【タイトル】 自在化身体：身体性のシステムの理解とその応用

【受講者数】 26名

・第8回（12月10日） 麻生英樹氏（産総研）

【タイトル】 生成AIとシステム構築

【受講者数】 58名

(3) 第2回「現代システム科学講座」連続講義 全第6回

【受講者数】 41名

① システム科学概論 4月26日・27日

【講師】 木村英範、船橋誠壽、椿 広計 氏

② モデリング 5月17日・18日

【講師】 木村英範、奥 宏史 氏

③ 最適化 6月28日・29日

【講師】 木村英範、船橋誠壽、滑川 徹 氏

④ 学習・AI 7月26日・27日

【講師】 木村英範、麻生英樹 氏

⑤状態推定と予測 9月27日・28日

【講師】木村英範、片山 徹 氏

⑥制御 10月25日・26日

【講師】木村英範、滑川 徹 氏

5. 学術協議会総会の開催

学会会員によって構成される学術協議会の総会を、6月5日に開催し、12名の学会会員とセンター長ほか5名のオブザーバーが参加した。海外のSoSシステムの動向とCPHS(Cyber Physical Human Systems)についてのSoS分科会活動の報告、大学改革に関するSIC戦略提言と、データ連携の取組であるウラノス・エコシステム推進センターについての協議会の立場からの位置づけについて話題提供があり、総合的な質疑応答を行った。学会会員から、これらのSICの活動への強い共感の意見とコメントを頂いた。

6. 戦略委員会の活動

SICの総合的、長期的な活動の指針ならびに中長期的な将来構想を策定するための「戦略委員会」傘下で昨年度より実施している戦略提言活動は、前述のとおり6つのサブワーキンググループにて政策提言をまとめている。本戦略提言活動については、「議案5」において、別途、説明する。

7. SICフォーラム

以下の8回の開催をおこなった。

- ・第1回（2月9日） 松崎 健一氏（株式会社理研数理）
【タイトル】産業界でのHPC（ハイパフォーマンスコンピューティング）活用促進に向けた取り組み ～「富岳」とAWSを例に～
【参加者数】31名
- ・第2回（4月9日） 遠藤 薫 氏（学習院大学 名誉教授）
【タイトル】「私たちは「人新世」を生きのびられるのか？ ～DX時代の倫理と可能性～」
【参加者数】50名
- ・第3回（5月28日） 岡田俊輔 氏（株式会社東芝）
【タイトル】「量子技術の産業化に向けて（現状と今後の道筋）」
【参加者数】120名
- ・第4回（6月25日） 中島一雄 氏（ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会）
【タイトル】「欧州&グローバル産業データ連携基盤の動向 ～日本産業界への示唆～」
【参加者数】126名
- ・第5回（7月19日） 橋田 浩一 氏（理化学研究所）
【タイトル】「分散PDSとパーソナルAI」
【参加者数】50名
- ・第6回（8月27日） 篠部武嗣 氏（日本貨物鉄道株式会社）
【タイトル】「貨物鉄道輸送 新時代への挑戦・進化」
【参加者数】45名
- ・第7回（9月24日） 島津めぐみ 氏（富士通株式会社）
【タイトル】「レガシーを脱却しデータ活用を実現する攻めのモダナイゼーション」
【参加者数】49名
- ・第8回（10月30日） 角 有司 氏（宇宙航空研究開発機構）
【タイトル】「宇宙開発の持続的発展に向けた取り組み ―大規模システム開発へのロボラスト設計の導入―」
【参加者数】70名

8. 広報活動

「SICニューズレター」を毎月発行。各号では、SICの活動状況報告とともに、以下に示すように有識者の方々に貴重な論説や寄稿を執筆頂いている。

- ・57号：寄稿：「生成AIとカイゼンAI：AIドリブン企業改革への新たな道筋」 竹之内 隆氏（トレンド・トラップ株式会社 代表取締役）
- ・58号：論説：「Society 5.0実現に向けて電力システムを再定義する」 岡本 浩 氏（東京電力パワーグリッド株式会社）
- ・59号：2023年度SIC定時社員総会（2024.3.5）報告
- ・60号：論説：「全社最適化を目指すスマート・ファクトリー実現に向けた取り組み」 大泉洋一 氏（株式会社JSOL）
- ・61号：寄稿：「デジタル社会を豊かにするエコシステムのあり方について」 尾山 壯一 氏（独立行政法人情報処理推進機構）
- ・62号：寄稿：「日本の物流におけるJR貨物の取り組みと課題」 野村 康郎 氏（日本貨物鉄道株式会社）
- ・63号：論説：「CAEからMBDへ」 津村 信一 氏（マツダ株式会社）
- ・64号：技術紹介：「工場施設の防災・減災のための地震対策」 梁川幸盛 氏、古川欽也 氏（株式会社構造計画研究所）
- ・65号：寄稿：「欧州&グローバル産業データ連携基盤の動向」 中島一雄 氏（ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会(RRI)）
- ・66号：技術紹介：「激甚化する豪雨災害に備える：システム化で実現する新しい防災」 瀧川宏樹 氏ほか（株式会社構造計画研究所）
- ・67号：寄稿：「みんなで創る次世代スマート工場」 石倉弘貴 氏ほか（東京科学大学）

論説・寄稿については、2024年度に執筆頂いた原稿をSICニューズレター「論説」集（第5巻）としてまとめ、関係機関に配布した。

この他の広報活動として、主に、非会員の一般向けとしてメールマガジン「SIC便り」を今年度も継続して定期的に発行するとともに、SICの紹介パンフレットを作成して広く配布することで新たな会員獲得に努めた。

また、SNSを通じた広報活動にも、本年度から力を入れることにし、まず、YouTubeに、2022年度開催の経営者研修講座における5件の講演の記録画像を掲載し、317件を越す視聴を得ている。その他、Facebook、XなどにもSIC主催イベントの案内などの掲載を始めている。

9. 会員状況

2025年3月1日現在の会員状況は以下の通りである。

- (1) 正会員
22社（「附・会員名簿」参照）
- (2) 準会員
3社（インキュベーション会員1、人財育成限定会員2）（同上）
- (3) 学会会員
48名（「附・学術協議会名簿」参照）
- (4) 個人会員
9名

以上

2024年度 SIC定時社員総会（2025年3月14日）

2b)

システムイノベーションセンター2024年度 決算書(案)

■収入予算と実績

2025年2月10日

項番	収入科目	会員数	2023年度実績	2024年度予算	2024年度実績	備考
1	(1)年会費収入 ・正会員	25社	¥14,400,000	¥12,800,000	¥12,800,000	
				¥800,000	¥0	新規会員口数 4口
2	・準会員	2社	¥0	¥150,000	¥150,000	準会員:インキュベーション 1社 他1社
				¥250,000	¥0	インキュベーション会員 1社 他2社
3	・学会会員	46名	¥0	¥0	-	
4	・個人会員	11名	¥45,000	¥55,000	¥40,000	
	会費収入 小計		¥14,445,000	¥14,055,000	¥12,990,000	
5	(2)受託収入(公的機関からの調査委託費)					
6	(3)講習会等参加費(会員外からの収入含む)		¥250,000	¥1,350,000	¥1,561,000	特別講義 システム科学 ケーススタディ
7	(3)共同研究実施費用					
8	(4)利息 その他		¥1,795		¥2,963	
9	会費以外の収入 小計		¥251,795	¥1,350,000	¥1,563,963	
10	当期 収入総計		¥14,696,795	¥15,405,000	¥14,553,963	

■実行予算と実績

	支出科目		2023年度実績	2024年度予算	2024年度実績	補足説明
	(1)事業費 小計		¥6,849,628	¥10,800,000	¥5,164,512	
11	・総会運営			¥300,000		
12	・理事会・戦略委員会 運営費		¥352,392	¥100,000	¥409,240	ハイブリッド開催費 役員登記費用
13	・SIC特別調査費		¥1,298,000	¥2,500,000	¥0	
14	・SIC戦略提言書 製本・配布		¥0	¥300,000	¥0	
15	・SIC活動成果(戦略提言)発表会		¥0	¥100,000	¥0	
16	・システム化シンポジウム		¥0	¥1,200,000	¥0	
17	・実行委員会 運営費		¥0	¥80,000	¥0	
18	・分科会・WG・人材育成協議会の運営費					
19	分科会謝礼		¥238,663	¥400,000	¥289,565	
20	活動費(WG活動 調査委託費)		¥704,626	¥1,000,000	¥47,000	戦略提言 活動費含む
21	・ケーススタディによるシステム構築講習会		¥512,988	¥600,000	¥1,040,601	
22	・システム塾運営費		¥0		¥0	
23	・システム人交流会		¥642,491	¥600,000	¥0	
24	・研修講座 講習会開催費		¥839,560	¥1,000,000	¥2,300,774	現代システム科学 特別講義
25	・SIC産学交流会運営費		¥0	¥100,000	¥0	
26	・SICフォーラム運営費 戦略フォーラム		¥473,719	¥500,000	¥172,625	
27	・経営者研修講座 パネルディスカッション		¥839,560	¥900,000	¥0	
28	・広報活動 ニュースレター発行、HPIによる情報発信、その他		¥409,136	¥500,000	¥493,373	企画運営費 執筆謝礼等
29	広報資料(パンフレット等)作成費		¥273,000	¥100,000	¥134,200	「論説集」発行費
30	広報強化 (プレス発表、Youtube等)による		¥0	¥100,000	¥12,560	Youtube GooglePlay
31	SICの広報誌		¥0	¥100,000	¥0	
32	・外部団体との連携活動の強化		¥0	¥100,000	¥0	
33	・SIC活動のシステム化情報基盤の高度化 (Teams, ZOOM, Adobe等)の活用費)		¥195,494	¥150,000	¥194,574	
34	・租税公課		¥70,000	¥70,000	¥70,000	
35	(2)管理費 小計		¥9,206,612	¥8,850,000	¥8,413,947	
36	・事務所 賃貸・共益費		¥3,327,859	¥3,240,000	¥3,108,480	
37	・人件費		¥5,455,165	¥5,200,000	¥4,909,649	
38	・事務管理の充実(備品類の整備等)		¥160,601	¥100,000	¥97,227	
39	・事務所 消耗品、その他諸経費		¥103,624	¥50,000	¥139,611	
40	・保守費		¥26,000	¥60,000	¥92,803	NTTマジックコネクト保守費 Web関連
41	・旅費・交通費 国内/海外		¥36,700	¥30,000	¥0	
42	・郵送費		¥22,234	¥50,000	¥4,951	
43	・通信費		¥48,364	¥60,000	¥48,364	
44	・雑費		¥5,000	¥30,000	¥2,962	
45	・振込手数料		¥21,065	¥30,000	¥9,900	
46	(3)予備費		¥0	¥1,000,000	¥0	
47	実績及び実行予算計		¥15,455,344	¥20,650,000	¥13,578,459	
48	当期収支損益		▲758,549	▲5,245,000	971,226	

■繰越金 期末正味財産

	2023年度実績	2024年度見込み	2024年度実績	
49	年度収支額	▲758,549	▲5,245,000	¥971,226
50	期首繰越金	¥25,101,589	¥24,343,040	¥24,343,040
51	期末繰越金	¥24,343,040	¥19,098,040	¥25,314,266

2c)

2025年2月10日

貸借対照表

2024年1月1日～2024年12月31日

項番	資産の部		負債の部	
	科目	金額	科目	金額
1	[流動資産]		[流動負債]	
2	現金・預金	¥24,848,914	未払金	¥159,000
3	未収会費		未払費用	
4	未収金	¥160,000	前受金	¥0
5	前払金	¥0	前受会費	¥0
6	前払費用	¥0	預り金	¥0
7	仮払金	¥0	短期借入金	¥0
8				
9	流動資産合計	¥25,008,914	流動負債合計	¥159,000
10				
11	[固定資産]		[固定負債]	
12	（有形固定資産）		固定負債合計	
13	PCおよび電話機等	¥305,352		
14			負債合計	¥159,000
15				
16			正味財産の部	
17	（無形固定資産）	¥0	[指定正味財産]	¥0
18			寄付金	¥0
19				
20			[一般正味財産]	
21			前期繰越正味財産	¥24,343,040
22	固定資産合計	¥305,352	当期正味財産増減額	¥812,226
23				
24			正味財産合計	¥25,155,266
25	資産合計	¥25,314,266	負債・正味財産合計	¥25,314,266

2024年度 SIC定時社員総会（2025年3月14日）

2d)

2025年2月10日

正味財産増減計算書

一般社団法人システムイノベーションセンター

2024年1月1日～2024年12月31日

項番	科目	2024年度予算	2024年度実績	2023年度実績	備考(増減)
1	I 一般正味財産増減の部				
2	1. 経常増減の部				
3	(1) 経常収益				
4	受取会費				
5	受取正会員会費	¥13,600,000	¥12,800,000	¥14,400,000	▲ 1,600,000
	受取准会員会費	¥400,000	¥150,000		
6	受取個人会員会費	¥55,000	¥40,000	¥45,000	▲ 5,000
7	事業収益				0
8	受取参加費	¥1,350,000	¥1,561,000	¥250,000	1,311,000
9	受取共同研究費		¥0	¥0	0
10	受取補助金等				0
11	受取寄付金				0
12	寄付金				0
13	雑収益				0
14	受取利息 その他		¥2,963	¥1,795	1,168
15	経常収益計	¥15,405,000	¥14,553,963	¥14,696,795	▲ 142,832
16	(2) 経常費用				
17	事業費				
18	・総会運営	¥300,000		¥352,392	56,848
19	・理事会・戦略委員会 運営費	¥100,000	¥409,240		
20	・SIC特別調査費	¥2,500,000	¥0	¥1,298,000	▲ 1,298,000
21	・SIC戦略提言書 製本・配布	¥300,000	¥0	¥0	0
22	・システム化シンポジウム	¥100,000	¥0	¥0	0
23	・実行委員会 運営費	¥1,200,000	¥0	¥0	0
24	・分科会・WG・人材育成協議会の運営費	¥80,000	¥0		
25	分科会謝礼		¥289,565	¥238,663	50,902
26	活動費(調査委託費等)	¥400,000	¥47,000	¥704,626	▲ 657,626
	・SIC 活動成果発表会 3分科会報告会	¥1,000,000	¥0	¥0	0
27	・ケーススタディによるシステム構築講習会	¥600,000	¥1,040,601	¥512,988	527,613
28	・システム塾運営費	¥600,000		¥0	0
29	・システム人交流会		¥0	¥642,491	▲ 642,491
30	・研修講座 講習会開催費	¥1,000,000	¥2,300,774	¥238,663	▲ 238,663
31	・SIC産学交流会運営費	¥100,000	¥0	¥0	0
32	・SICフォーラム運営費 戦略フォーラム	¥500,000	¥172,625	¥473,719	▲ 301,094
33	・経営者研修講座 パネルディスカッション	¥900,000	¥0	¥839,560	▲ 839,560
34	・広報活動 ニュースレター発行、HPによる情報発信、その他	¥500,000	¥493,373	¥409,136	84,237
35	広報資料(パンフレット等)作成費	¥100,000	¥134,200	¥273,000	▲ 138,800
36	広報強化 (プレス発表、Youtube等)による	¥100,000	¥12,560	¥0	12,560
37	SICの広報誌	¥100,000	¥0	¥0	
38	・外部団体との連携活動の強化	¥100,000	¥0	¥0	0
39	・SIC活動のシステム化(デジタル化)情報基盤の高度化 (Teams契約、ZOOM、Adobe等)のソフト活用追加整備)	¥150,000	¥194,574	¥195,494	▲ 920
40	・租税公課	¥70,000	¥70,000	¥70,000	0
41	事業費計	¥10,800,000	¥5,164,512	¥6,248,732	▲ 1,084,219
42	管理費				
43	・事務所 賃貸・共益費	¥3,240,000	¥3,108,480	¥3,327,859	▲ 219,379
44	・人件費	¥5,200,000	¥4,909,649	¥5,455,165	▲ 545,516
45	・事務管理の充実(備品類の整備等)	¥100,000	¥97,227	¥160,601	▲ 63,374
46	・事務所 消耗品、その他諸経費	¥50,000	¥139,611	¥103,624	35,987
47	・保守費	¥60,000	¥92,803	¥26,000	66,803
48	・旅費・交通費 国内/海外	¥30,000	¥0	¥36,700	▲ 36,700
49	・郵送費	¥50,000	¥3,951	¥22,234	▲ 18,283
50	・通信費	¥60,000	48,364	¥48,364	0
51	・雑費	¥30,000	¥2,962	¥5,000	▲ 2,038
52	・振込手数料	¥30,000	¥9,900	¥21,065	▲ 11,165
53	管理費計	¥8,850,000	¥8,412,947	¥9,206,612	▲ 793,665

2024年度 SIC定時社員総会（2025年3月14日）

正味財産増減計算書（続き）

一般社団法人システムイノベーションセンター

2024年1月1日～2024年12月31日

項番	科目	2024年度予算	2024年度実績	2023年度実績	備考(増減)
54	予備費	¥1,000,000	¥0	¥0	0
55	経常費用計	¥20,650,000	¥13,578,459	¥15,455,344	▲ 1,876,885
56	評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 5,245,000	¥971,226	¥-758,549	1,729,775
57	当期経常増減額		¥812,226		812,226
58	2. 経常外増減の部				0
59	(1) 経常外収益				0
60	経常外収益計	¥0	¥0	¥0	0
61	(2) 経常外費用				0
62	経常外費用計	¥0	¥0	¥0	0
63	当期経常外増減額	¥0	¥0	¥0	0
64					0
65	当期一般正味財産増減額				0
66	一般正味財産期首残高	¥25,101,589	¥24,343,040	¥25,101,589	▲ 758,549
67	一般正味財産期末残高	¥19,098,040	¥25,314,266	¥24,343,040	971,226
					0
68	II 指定正味財産増減の部				0
69	受取補助金等	¥0	¥0	¥0	0
70	一般正味財産への振替額	¥0	¥0	¥0	0
					0
					0
71	III 正味財産期末残高	¥19,098,040	¥25,314,266	¥24,343,040	971,226

2e)

2025年2月10日

一般社団法人システムインベーションセンター 第3期事業報告
 附属明細書 財務諸表に関する注記

1 通帳残高と現金

2024年12月3日時点での通帳残高,および現金残高は下記の通り		12月31日
①SICセンター預金口座		¥24,844,764
②現金残高		¥3,072
	計	¥24,847,836

2 繰越金の扱い

繰越金は、当法人の継続的な事業運営の観点(継続性と財務の安全性・安定性)を考慮して運営している。
 今年度は、期末の12月にイベント事業を開催したために未払金・未収金が発生した。
 未払金はカード決済によるため銀行引き落としが期をまたがった処理となった。

3 備品

オンライン形式やハイブリッド形式でのイベント開催のためのSIC備品として購入した主な品目は下記の通り。

バッファロー リンクステーション		1台	事務所備品
------------------	--	----	-------

昨年までに購入した備品

ワイヤレスピンマイク		1式	
デュアルチャンネルマイクシステムレシーバ・トランスミッター		1式	
OKNWifi6 無線LAN子機		1式	
バッファローWiFi無線ルータ		1式	
その他、ハイブリッド映像システムに要する備品1式 LANケーブル等		1式	

以上

2f) 会計監査報告

監査報告書

一般社団法人システムイノベーションセンターにおける 2024 年度（令和6年度）の事業報告書、貸借対照表、正味財産増減計算書、並びに附属明細書は、監査の結果、当法人の状況を正しく示し事実と相違ないことを認めます。

2025 年（令和 7 年）2 月 10 日

一般社団法人システムイノベーションセンター 監事 船橋 誠壽



附)

2025年2月10日

SIC財産目録

科目	購入日	品名	備考
事務所備品	2020	プロジェクター	
事務所備品	2020	USBカメラ	オンラインミーティング備品
事務所備品	2020	JABRA	同上
事務所備品	2020	カメラ三脚	同上
事務所備品	2020	ヘッドセット	同上
事務所備品	2020	ワイドレンズカメラ(サンワサプライ)	同上
事務所備品	2020	ノートPC	同上
事務所備品	2021	ノートPC	事務所
事務所備品	2021	モバイルディスプレイ	ハイブリッド環境構築備品
事務所備品	2021	ビデオカメラ 2セット	同上
事務所備品	2021	カメラ三脚	同上
事務所備品	2021	YVC1000 マイクセット	同上
事務所備品	2021	その他 ハイブリッド映像システムに要する備品1 式 LANケーブル 電源ケーブル等	同上
事務所備品	2022	ワイヤレスピンマイク	同上
事務所備品	2022	デュアルチャンネルマイクシステムレシーバ・トランスミッター	同上
事務所備品	2022	OKNWifi6 無線LAN子機	同上
事務所備品	2022	バッファローWiFi無線ルータ	同上
事務所備品	2023	キャノン MFP GX6000	事務所
事務所備品	2023	キャリーカート 1台	器材運搬用
事務所備品	2024	バッファロー リンクステーション 1台	業務データ保管用RAID

【第3号議案：普通決議事項】 SIC第3次中期計画策定の件
 SICの第3次(2025年度～2027年度)の中期計画について、策定の承認を求める。

システムイノベーションセンター 第三次(2025-2027)中期事業計画 (v.1.3)

2025年2月10日

Copyright 2025 Systems Innovation Center

SIC事業のコンセプト

SICの3本の柱

- 企業におけるシステム化の課題解決に向けた支援
- 優れた社会システムの興築に向けた推進支援
- 人材育成

継続と深化

2019年

日本のシステム化の揺籃期を担う初動組織となる。

【第一次中期計画】

- <システム化力による産業界強化>
- <システム化のブランドデザイン提示>
- <システム化人材育成強化>
- <センター体制強化>

2022年

日本が直面する課題の達成に向けシステム化の有効性を社会に示す。

【第二次中期計画】

- モノのシステムから人を要素とするシステムへ
- 学との連携を強化（社会システム科学の創設）
- 人材育成のプログラムの構築化
- SoS, Ecosystem/デジタルシステムなど、現実の社会システムの実務課題への対応
- 少子高齢化など、喫緊の社会課題の対応へのシステム化アプローチの有効性を示す

2025年

日本の各分野での「卓越システム」の構築の推進を通して、人中心社会の豊かさを協創するシステム4.0の提唱。

【第三次中期計画】

- システムの「質」を重視しよう - 「社会にとっての良いシステム」を再定義する → 卓越システムの構築普及の支援
- システム化は何のためかを問い、人を中心とした社会の豊かさを拡張する「システム4.0」を、各分野に普及・推進する
- データ共有による「システム産業」の創出と活性化を、豊かな社会の協創に向けて促す

	システム1.0	システム2.0	システム3.0	システム4.0
システム4.0の組織				社会の豊かさを拡張するためのシステム
			情報化、知能化のためのシステム	
		機械による「自動化」のためのシステム		
	人間士の協働・協力を推進するためのシステム			

第三次中期計画の要点

SICの活動における3本の柱

- 企業におけるシステム化の課題解決に向けた支援
- 優れた社会システムの実装に向けた推進支援
- 人材育成

を引き続き堅持し、製造業をはじめとする社会全域において、新しい価値を創造し、機能を高めるシステムを作り出すため、さまざまな領域におけるシステム化推進の民間主導の活動母体として、産業界、学界、行政と連携して、国際的な競争力向上に寄与する活動を、引き続き、継続する。

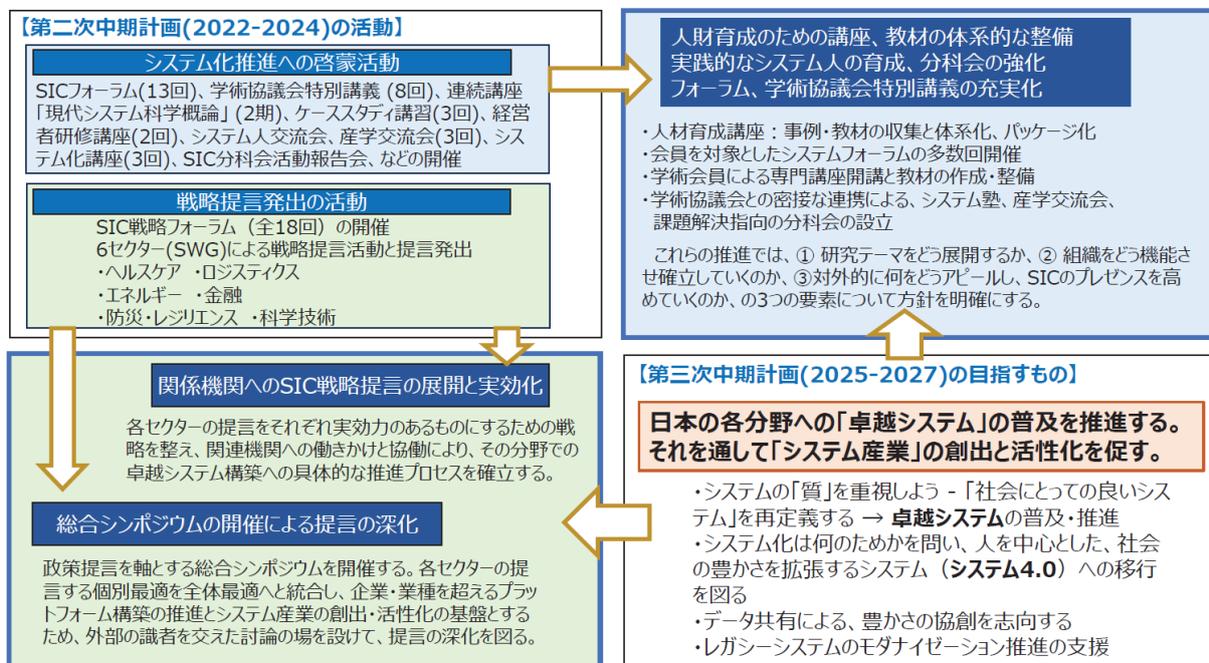
さらに、新たな社会ニーズに応える分科会の設立等による、これまでに構築してきた現代システム論の体系化を図り、SICの体制の強化をめざす。

その上で、第三次では、特に「良いシステムの構築」を呼びかけ、次の目標を掲げる。

- ・ システムの「質」を重視して、システム化は何のためかを問い、「**卓越システム**」を再定義して、人を中心とした社会の豊かさを拡張する「**システム4.0**」を、各分野に普及・推進する。
- ・ データ共有による豊かさの協創を図り、**それを通して「システム産業」の創出と活性化を促す。**
- ・ システムのモダナイゼーション推進を通して、「**良いシステム**」を日本中に行きわたらせる。

◎人を中心とする社会の「豊かさ」、「質」は、システム論的には、「卓越したシステムの下で、データの共有が図られる」ことに帰着する。

【第二次中期計画の活動実績からの継承】



「卓越システム」とは、次の特性を持つシステムを言う

- システム構築の目的がはっきりしている。
- システムの全体構成が理解しやすい。
- 出来ることと出来ないことの境界が明確。
- 運用しやすく、故障への対応が容易である。
- 拡張可能性（Scalability）がある。
- 技術の進歩を含む環境の変化に応じて進化できる。
- 利害関係者の多くを満足させることが出来る。
- 利用可能なテクノロジーを効率的に使っている。
- 堅牢で十分な持続可能性がある。
- システム構築、運用のコストが小さい。

「システム4.0」とは（木村:「システム4.0」、SICニューズレターvol.16.2、2025.12.3 より抜粋）

- システムの始まりは人間の複合体であろう。狩猟や採取、農耕で人間同士が協力することのための大小様々の人間関係のシステムが自然発生的に作られていた。例えば、ピラミッドのような巨大な建造物を作るには、数万人の労働力を長期にわたって差配する大きなシステムなしには不可能である。人々が集い生活する都市や国家や教会の形成も、自然発生的なシステムの構成事例と考えてよいだろう。これを、**システム1.0**と呼ぼう。
- システムの進化の大きな分水嶺となったのは、産業革命における機械の誕生である。機械は自然力に頼っていたエネルギー源を人工物に変え、人間の身体の動きに頼っていた作業を機械に置き換えた。機械は、「自動化」を究極の目標として進化していき、のちの「オートメーション」の出現を見た。この機械によるシステム化を、**システム2.0**と呼ぶ。
- 20世紀初頭の電力の送配電システムの発明は、人々の生活の様相を大きく変えた。エネルギーの伝達を容易にし、関連する革新的な技術が主導し、その波及効果が産業全体に広がったシステム2.0を代表するシステムである。システム2.0は、その後、生産工程のシステム化と製品のシステム化へとつながった。
- 20世紀後半における計算機の登場はシステムの発展に新しい時代を画した。情報を伝達、変換、保存する新しいシステムの可能性が開けた。このシステムがもたらす未来社会は「情報化社会」と呼ばれた。この情報化に基づくシステムを**システム3.0**と呼ぶ。ITやICTのシステム化の推進が主要な産業政策の柱になった。
- システム3.0での「情報化社会論」では、まだ全く議論されていなかったのがインターネットである。インターネットは「自律分散」と「創発」を核に据えたこれまでにない全く新しい原理に基づくシステムで、多くの産業システムのプラットフォームとなっている。インターネットが生み出したさまざまな新しいシステムは、これまでの「情報処理」のレベルをはるかに超えた技術を駆使し、膨大な利用者の知恵を集約し、想像もつかなかったビジネスやエンターテインメントを作り出している。これを、ここでは、**システム4.0**と呼ぶ。

【議題4：報告事項】 2025年度 事業計画及び予算の報告の件
2025年度の事業計画及び予算について報告する。

添付資料

- 4a) 2025 年度事業計画
- 4b) 2025 年度予算書

4a) 2025 年度事業計画

SIC 2025年の主要な活動計画

SIC設立後6年を経て、SICの活動における3本の柱、

- ① 企業におけるシステム化の課題解決に向けた支援
- ② 優れた社会システムの実装に向けた推進支援
- ③ 人材育成

を軸とした活動は、我が国のシステム化の推進に一定の成果を挙げてきている。特に、人材育成と優れた社会システムの実装のための、フォーラム開催、ニューズレターの発刊、人材育成のための各種講習会の開催などの活動では、SICの資産と呼べる多大な成果物と知見の蓄積を持つに至っている。

第3次中期計画（議案書3参照）の初年となる2025年度は、これらをベースに、製造業をはじめとする社会全域において、新しい価値を創造し、機能を高めるシステムを作り出すため、さまざまな領域におけるシステム化推進の民間主導の活動母体として、産業界、学界、行政と連携して、国際的な競争力向上に寄与する活動を継続する。

第3次中期計画では、特に「良いシステムの構築」を呼びかけ、次の目標を掲げている。

- (1) システムの「質」を重視して、システム化は何のためかを問い、「卓越システム」を再定義して、人を中心とした社会の豊かさを拡張する「システム4.0」を、各分野に普及・推進する。
- (2) データ共有による豊かさを協創を図り、それを通して「システム産業」の創出と活性化を促す。
- (3) システムのモダナイゼーション推進を通して、「良いシステム」を日本中に行きわたらせる。

これらの目標の実現に向けて、一層の努力を集中的に行っていききたい。さらに、新たな社会ニーズに応える分科会の設立等による、これまでに構築してきた現代システム論の体系化を図り、SICの体制の強化をめざす。

特に、2025年度の活動計画として、以下の2点を中心とすると同時に、現在以上にSICの存在感を増すような外部発信を強化していききたい。

- この3年間、SIC 会員企業の構成員が中心となってまとめてきた「SIC 戦略提言」を、実社会にて着地させる活動に注力。
- 構想が具体化してきている「ウラノス・エコシステム」の推進への関与を始めとして、SICの活動の奥行きを広げ、その目標の社会実現を具体的に図る。

ていく。

その上で、以下の計画を具体化していく（①、②、③ は、上記の「SIC 3本の柱」のどれに関連する活動かを示す）。

- 戦略提言6セクター（ロジスティック、金融、科学技術、防災・レジリエンス、エネルギー、ヘルスケア）ごとの関係機関への発信と、提言の実効性の検証と強化（①、②）
- 上記の政策提言を軸とする総合シンポジウム「日本をシステムから考える（仮）」の開催（②）
- 経営者研修講座、システム人交流会の開催（②、③）
- システム科学講習会（トピックごとに全6回）の開催（③）
- 会員の関心の高い領域についてのフォーラムの開催（6～8回程度）（②、③）
- 総合調査（調査会社に依頼）の実施（①、②）
- ウラノス・エコシステム構築の推進支援（①）
- 量子技術、AI等の先進科学技術システムの利用に関する新たな分科会の立ち上げ（①、②）

以上

2024年度 SIC定時社員総会（2025年3月14日）

4b)

システムイノベーションセンター2025年度予算書(案)

2025年2月18日

■収入予算と実績

項番	収入科目	会員数	2024年度予算	2024年度実績	2025年度予算(案)	備考
	(1)年会費収入					
1	・正会員	24社	¥12,800,000	¥12,800,000	¥11,800,000	
			¥800,000	¥0	¥400,000	正会員 2社(一口)の入会を想定
2	・準会員	3社	¥150,000	¥150,000	¥250,000	MHI,東京ガス、電腦バンク
			¥250,000	¥0	¥200,000	準会員2社の会員増
3	・学会会員	48名	-	-	-	
4	・個人会員	8名	¥55,000	¥40,000	¥40,000	
	会費収入 小計		¥14,055,000	¥12,990,000	¥12,690,000	
5	(2)受託収入(公的機関からの調査委託費)					
6	(3)講習会等参加費(会員外からの収入含む)		¥1,350,000	¥1,561,000	¥700,000	特別講義 シンポジウム 経営者研修
7	(3)共同研究実施費用					
8	(4)利息			¥2,963		
	会費以外の収入 小計		¥1,350,000	¥1,563,963	¥700,000	
9	当期 収入総計		¥15,405,000	¥14,553,963	¥13,390,000	

■実行予算と実績

	支出科目	2024年度予算	2024年度実績	2025年度予算	補足説明
11	(1)事業費 小計	¥10,800,000	¥5,164,512	¥7,090,000	
12	・総会運営	¥300,000		¥300,000	
13	・理事会・戦略委員会 運営費	¥100,000	¥409,240	¥100,000	ハイブリッド形式で開催
14	・SIC特別調査費	¥2,500,000	¥0	¥700,000	
15	・SIC戦略提言書 製本・配布	¥300,000	¥0	¥100,000	
16	・戦略提言シンポジウム 運営費	¥1,000,000	¥0	¥1,500,000	戦略提言シンポジウム開催
17	・実行委員会 運営費	¥1,200,000	¥0	¥80,000	対面での会議 2回 委員会活性化
18	・分科会・WG・人材育成協議会の運営費				
19	- 分科会謝礼	¥80,000		¥480,000	分科会2テーマの主旨の謝礼等を想定
20	- 活動費(WG活動 調査委託費)	¥400,000	¥289,565	¥500,000	戦略提言活動費 含む
21	・SIC活動成果発表会 SIC内シンポ 提言	¥1,000,000	¥47,000	¥0	
22	・ケーススタディによるシステム構築講習会	¥600,000	¥1,040,601	¥0	2025年度は見合わせる
23	・システム塾運営費				
24	・システム人交流会	¥600,000	¥0	¥700,000	
25	・研修講座 講習会開催費	¥1,000,000	¥2,300,774	¥400,000	会場費、講師謝礼
26	・SIC産学交流会運営費	¥100,000	¥0	¥0	
27	・SICフォーラム運営費 戦略フォーラム	¥500,000	¥172,625	¥300,000	
28	・経営者研修講座 パネルディスカッション	¥900,000	¥0	¥900,000	OEPCとの共催
29	・広報活動 ニュースレター発行、HPIによる情報発信、その他	¥500,000	¥493,373	¥500,000	
30	広報資料(パンフレット等)作成費	¥100,000	¥134,200	¥80,000	
31	広報強化 (プレス発表、Youtube等)による	¥100,000	¥12,560	¥120,000	広報WG設置
32	SICの広報誌	¥100,000	¥0	¥130,000	SIC論説集(第5巻)の印刷 配布
33	・外部団体との連携活動の強化	¥100,000	¥0	¥30,000	
34	・SIC活動のシステム化情報基盤の高度化 (Teams契約、ZOOM、Adobe 等のソフト活用追加整備)	¥150,000	¥194,574	¥100,000	
35	・租税公課	¥70,000	¥70,000	¥70,000	
	(2)管理費 小計	¥8,850,000	¥8,413,947	¥8,370,000	
36	・事務所 賃貸・共益費	¥3,240,000	¥3,108,480	¥3,240,000	
37	・人件費	¥5,200,000	¥4,909,649	¥4,900,000	
38	・事務管理の充実(備品類の整備等)	¥100,000	¥97,227	¥70,000	
39	・事務所 消耗品、その他諸経費	¥50,000	¥139,611	¥30,000	
40	・保守費	¥60,000	¥92,803	¥30,000	
41	・旅費・交通費 国内/海外	¥30,000	¥0	¥10,000	
42	・郵送費	¥50,000	¥4,951	¥20,000	
43	・通信費	¥60,000	¥48,364	¥30,000	
44	・雑費	¥30,000	¥2,962	¥10,000	
45	・振込手数料	¥30,000	¥9,900	¥30,000	
46	(3)予備費	¥1,000,000	¥0	¥1,000,000	
47	実績及び実行予算計	¥20,650,000	¥13,578,459	¥16,460,000	
48	当期収支損益	▲ 5,245,000	971,226	▲ 3,070,000	

■繰越金 期末正味財産

	2024年度見込み	2024年度実績	2025年度見込み	
49	年度収支額	▲ 5,245,000	971,226	▲ 3,070,000
50	期首繰越金	¥24,343,040	¥24,343,040	¥25,314,266
51	期末繰越金	¥19,098,040	¥25,314,266	¥22,244,266

注記:2025年度予算では、当期収支の差分は、繰越金を充当して実行する。

【議題5：報告事項】 SIC 戦略提言発出活動の件
2024年度のSICの主要な活動となる「SIC戦略提言」の発出活動について報告する。

2023年度～2024年度「SIC戦略提言活動」報告(サブワーキンググループの活動)

URL: https://sysic.org/center_activity/3837.html

1. SWGの種類とリーダー。参加メンバー会員企業

NO	SWG 名称	公開状況	リーダー&会員企業
1	ヘルスケア SWG	Web 公開-I	リーダー 山本義春（東京大学）、 高橋透（ニューチャーネットワークス） メンバー企業 SOMPO システムズ、三井住友信託銀行、マツダ、 S C S K、富士通、ニューチャーネットワークス
2	科学技術 SWG	Web 公開-II	木村, 出口
3	エネルギーSWG	Web 公開-III	リーダー 船橋、高木、古屋（日立製作所） メンバー企業 東京ガス、三菱電機、横河電機、 日立産業制御ソリューションズ、日立製作所、東京電力 PG
4	ロジスティックス SWG	Web 公開-IV	リーダー 藤野直明（野村総研）、 サブリーダー：西成活裕（東京大学）、 河合垂矢子（学習院大学） メンバー企業 テクノバ、東芝デジタルソリューションズ、 ロジスティード(旧日立物流)、三菱重工業
5	金融 SWG	Web 公開-V	リーダー 藤井（SOMPO システムズ）、 寺野（千葉商科大学） メンバー企業 三井住友銀行、N TTT コムウェア SOMPO システムズ、クレスト、NTT ドコモ
6	防災・レジリエン ス SWG	提言内容 最終校正中	リーダー 赤津雅治（日立システムズ）、 宮前義彦（富士通） メンバー企業 東芝デジタルソリューションズ、構 造計画研究所、マツダ、日立製作所 日立国際電気

2. 活動記録と活動内容説明

上記の各サブワーキンググループの2023年度～2024年度の活動にて検討した内容は以下である。

○ヘルスケア

リーダー 山本義春（東京大学）、高橋透（ニューチャーネットワークス）
メンバー企業 SOMPOシステムズ、三井住友信託銀行、マツダ、S C S K、
富士通、ニューチャーネットワークス

「高齢者の自動車運転にかかる社会システム構想」の提言をまとめた。
提言1：デジタル技術を活用した運転能力の把握と安全を適切にサポートするシステム、お

- よび、それらを車載したデジタルサポートカーの開発導入を促進すべきである。
- 提言2：資金的支援を含めた”デジタルサポートカー認定制度”の充実と、その制度を理解し体験できる普及啓発活動の場づくりを進める。
- 提言3：健康状態を測定・解析しつつ運転能力の維持・向上にも資するデジタル技術（ドライビングシミュレーター技術等）の研究開発を進める。
- 提言4：日常の健康データと、運転能力の関連性を解析し、運転寿命延伸に効果的な運動・生活習慣の特定とその普及啓発活動の推進をはかる。

○科学技術

メンバー 木村、出口

- 提言1：『現場』を重視する科学技術政策を促進すべきである。
そして、これまでの科学技術政策の盲点を補い、産業界からの問題提起に応えるために、下記の新しいプロジェクトを提案する。
- 提言2：「研究室連携による卓越システム構築プロジェクト」を創始する。このプロジェクトの特徴は以下のとおりである。
- ◎ 研究者個人ではなく研究室が研究の主体となる。日本独特の研究室制度が持つプラスの面を強調し、それをチームワークの「かなめ」として生かす。
 - ◎ 大学院生を学生の身分のまま正規の研究員として企業は受け入れ、プロジェクトに関する義務と責任を課す。それに見合う給与を支払う。
 - ◎ 高度なシステムの構築には、先端的な要素研究と総合的なシステム研究の両者のマッチングが必要であり、研究と実用化が隣り合わせである。企業は、産業界の実態に適合するシステムが構築されるように、研究現場、参加学生に助言を与える。

○エネルギー

リーダー 船橋、高木、古屋（日立製作所）

メンバー企業 東京ガス、三菱電機、横河電機、日立産業制御ソリューションズ、
日立製作所、東京電力PG

- 提言1：セクター融合エネルギーマネジメントの構築。
時間的に変動幅の大きい再エネを大量に導入可能とするために、発電の調整に加えて、需給バランスを調整する運用に転換して行く。これを、モビリティ、熱供給などのそれぞれのセクターが形成する物理ネットワークと電力ネットワークとで融合させ、そのシステム構築を通して、セクター連携の範囲を量的・質的に高める。
- 提言2：デジタル・電力・水素・物流網の統合的形成的ための情報連携システムの構築。
エネルギーに関わる生産・流通・消費の構想に関する情報について、全国視点からの取組と地域視点から、相互に参照可能な情報連携を実現するシステムを構築する。
これによって、全国計画立案の多面性、正確性を高めると同時に、地域間での技術移転の促進、新規事業者の育成につなげる。
- 提言3：CNコンビナート構築広域連携拠点の設置各地で進展する。
CNコンビナート計画立案・構築にかかわる広域連携拠点を設け、各地の知識の相互流通・蓄積を図ると同時に、CNコンビナートが水素・回収CO₂の最大利用者であることを背景に全国的な水素・CO₂の流通の在り方を検討する。

○ロジスティックス

リーダー 藤野直明（野村総研）、サブリーダー：西成活裕（東京大学）、
河合亜矢子（学習院大学）

2024年度 SIC定時社員総会（2025年3月14日）

メンバー企業 テクノバ、東芝デジタルソリューションズ、
ロジスティード(旧日立物流)、三菱重工業

提言：以下のシステム構築・整備を図る。

- ① 荷主の物流統括役員（CLO）の設置と業界横断でのイノベーション推進組織の整備
- ② 俯瞰的な視座からのオペレーション変革のビジョンの構築
- ③ 「荷姿」や「企業間業務プロセス」と「企業間 IT プロトコル」の標準化による、基幹業務ソフトSaaS産業、マテハン産業等のスケール化と適正価格での提供
- ④ 新技術の活用（自動運転や連結トラック、マテリアルハンドリングロボットなど）
- ⑤ 首都圏環状型の大型物流空間の整備による輻輳物流の削減等の施策の推進
- ⑥ 国際標準の企業間データ交換（EDI等）の仕組みの導入
- ⑦ トレーサビリティのための「次世代型データ連携基盤」への取組の拡充

これらの実現によって、近未来の物流産業の構造は、以下3つの構造変が期待できる。

- ① 階層化された産業エコシステムの台頭、
- ② 「システムのインテグレータとしてのサードパーティロジスティクス（3PL）事業者」の台頭、
- ③ 流通+物流産業として拡大物流産業の台頭（＝運ばない物流産業）。

○金融

リーダー 藤井（SOMPOシステムズ）、寺野（千葉商科大学）

メンバー企業 三井住友銀行、SOMPOシステムズ、NTTコムウェア、クエスト、
NTTドコモ

○現在のマイナンバー制度の金融システムへの利用範囲について、以下の観点で検討し、デジタルエコシステムとしてのシステム構築の提案をしたい。

- ・マイナンバー制度の個人データ自動連携導入範囲の拡大による利点
納税関連手続き、住宅ローン情報、保険料控除情報、株式譲渡益・配当情報、住民票登録等、免許証・パスポート発行、etc.
- ・金融面での利用範囲拡大の観点
銀行預金等での利用、生命保険等での利用など、金融サービスのID一元化による、顧客情報管理の効率化、サービス提案の質の向上、etc.
ただし、これらが、生活を豊かにするために金融面での利用拡大となっているのかという観点が検討には必要。
- ・これらを実現するために必要なセキュリティ対策
 - ・分散PDSをベースとした情報共有
 - ・マイナンバー管理の情報セキュリティ対策
 - ・マイナンバー制度の国民の理解向上

○防災・レジリエンス

リーダー 赤津雅治（日立システムズ）、宮前義彦（富士通）

メンバー企業 東芝デジタルソリューションズ、構造計画研究所、マツダ、
日立製作所

- ・各企業の防災に向けたシステム・データの疎結合による連携・統合
- ・シミュレーションによる災害状況予測の高度化
- ・災害時の情報の欠落のなかでの状態の推定と、その下での的確な回復作業の実行を支援するシステムの構築(「状態の推定」と「的確な回復作業の実行」を系統的にPDCAサイクルで行うことが必要)

その他の検討課題：

- ・大規模災害による物流クライシスへの系統的な対応
 - ・事前防災への取り組み
 - ・ITとエンジニアリングを融合しての「災害対策・保全支援」をビジネステーマとして確立する
- 防災・対災に対応したIT技術の提供（インフラ監視、洪水予測、緊急時のアラートや連絡システム等）
- 映像技術・無線技術をコアとしたIT/IoTによる防災・減災ソリューションの開発・提供
- 生成系AIを、災害やレジリエンスの境界を機械的に定めるために活用するシステムの構築

（附） システムイノベーションセンター 現況 （2025年3月現在）

a1) 会員の状況

2025年3月1日の会員の状況は下記の通り。

正会員 23社 準会員 3社 個人会員 9名 学会会員 48名

a2) 正会員

NO	SIC会員企業名	備考
1	SCSK株式会社	
2	NTTコムウェア株式会社	
3	株式会社NTTドコモ	
4	株式会社クエスト	
5	株式会社構造計画研究所	
6	株式会社国際電気	
7	株式会社JSOL	
8	損害保険ジャパン株式会社	
9	株式会社テクノバ	
10	株式会社東芝	
11	東京電力パワーグリッド株式会社	
12	日鉄ソリューションズ株式会社	
13	日本郵船グループ株式会社MTI	
14	株式会社ニューチャーネットワークス	
15	株式会社野村総合研究所	
16	株式会社日立産業制御ソリューションズ	
17	株式会社日立システムズ	
18	株式会社日立製作所 研究開発グループ 社会システムイノベーションセンタ	
19	富士通株式会社	
20	マツダ株式会社	
21	三菱電機株式会社	
22	横河電機株式会社	
23	ロジスティード株式会社	

準会員

1	電脳バンク株式会社	インキュベーション会員
2	東京ガス株式会社	人財育成限定会員
3	三菱重工業株式会社デジタルイノベーション本部	人財育成限定会員

a3) 学術協議会

学術協議会		
主査	藤田政之 教授	東京大学、制御工学
副主査	白坂成功 教授	慶應義塾大学、システムデザイン&マネジメント
メンバー		
関西大学	黒江康明 客員教授	システム学、制御理論とその応用、知能情報処理
京都大学	榎木哲夫 名誉教授	システム工学,機械工学,人間機械系,デザイン学
	喜多 一 教授	社会シミュレーション、情報教育
	池田裕一 教授	データ科学、ネットワーク解析、政策科学
慶應義塾大学	中野 冠 SDM顧問	システムデザイン&マネジメント、デザイン工学
	前野隆司 教授	システムデザイン&マネジメント、人間工学
	西村秀和 教授	システムデザイン&マネジメント、モデル学
	滑川 徹 教授	分散協調制御、超Smart City研究
	高橋大志 教授	ビジネススクール、金融工学
神戸大学	貝原俊也 教授	エネルギーシステム論、情報科学
東京国際大学	松尾博文 教授	経営学,オペレーションズ・マネジメント
都立産業技術 大学院大学	川田誠一 名誉教授	システム工学
	橋本洋志 教授	サービス工学、データサイエンス
	瀬戸洋一 名誉教授	サイバーセキュリティ、リスクマネジメント
	中鉢欣秀 教授	環境情報学、ソフトウェア工学
筑波大学	倉橋節也 教授	経営システム科学、シミュレーション経営学
東京大学	吉村 忍 教授	システム創成学
	梅田 靖 教授	精密工学、サステイナブル工学
	太田 順 教授	精密工学専攻 人工物工学研究、ロボット学
	古田一雄 教授	技術経営戦略、レジリエンス工学
	松尾 豊 教授	人工知能、人工物工学
	山本義春 教授	教育生理学
	西成活裕 教授	数理創発システム、渋滞学
	青山和浩 教授	システム創成学
	稲見昌彦 教授	複合現実感、ロボット工学、リアルメディア
中村 宏 教授	高品質コンピューティング	

2024年度 SIC定時社員総会（2025年3月14日）

東京工業大学	寺野隆雄 名誉教授	AI、システム理論
	小野 功 教授	進化計算・最適化
東京農工大学	澁澤 栄 特任教授	リアルタイムセンシング、IoT精密農業、学習支援
統計数理研究所	椿 広計 所長	品質管理、統計科学
	田村義保 名誉教授	計算統計学、時系列解析
大阪大学	鎗水徹 教授	「経営とIT」戦略
一橋大学	鷺田祐一 教授	経営管理専攻、マーケティング、未来洞察
北陸先端科学技術 大学院大学	小坂満隆 名誉教授	サービス工学、システム科学
	神田陽治 教授	知識マネジメント、社会情報工学
	永井由佳里 教授	知識工学、ヒューマンライフデザイン
横浜国立大学	田名部元成 教授	経営システム科学、マネジメント・サイエンス
早稲田大学	岸 知二 教授	ソフトウェア工学
	高橋真吾 教授	経営システム、シミュレーション
	鷺崎弘宜 教授	人間行動モデル、シミュレーション
青山学院大学	玉木欽也 教授	グローバル製品サービス戦略
学習院大学	遠藤薫 名誉教授	社会学、社会情報学、メディア論、計算社会科学
	河合亜矢子 教授	サプライチェーンマネジメント
芝浦工業大学	後藤裕介 准教授	意思決定、シミュレーション
桃山学院大学	大村鍾太 准教授	サプライチェーンコーディネーション、DX
名古屋大学	下田真吾 特任教授	ロボティクス、生物の運動制御、人工知能

2024年度 SIC定時社員総会（2025年3月14日）

a5) 実行委員会委員名簿（2025年度）

NO	委員区分	所属	氏名	会員種別
1	実行委員長	元（独）情報処理推進機構	松本 隆明	SIC 理事
2	実行委員	株式会社構造計画研究所	中野 一夫	正会員
3	実行委員	SOMPPOシステムズ株式会社	藤井 紳也	正会員
4	実行委員	株式会社野村総合研究所	藤野 直明	正会員
5	実行委員	マツダ株式会社	川西 博実	正会員
6	実行委員	三菱電機株式会社	平岡 精一	正会員
7	実行委員（正）	株式会社東芝	田島 正憲	正会員
8	実行委員（副）	株式会社東芝	小平 直朗	正会員
9	実行委員	横河電機株式会社	牧野 泰丈	正会員
10	実行委員（正）	日立製作所研究開発グループ	谷 繁幸	正会員
11	実行委員（副）	日立製作所研究開発グループ	高橋 由泰	正会員
12	実行委員	東京大学	青山 和浩	学術会員
13	実行委員	千葉商科大学	寺野 隆雄	学術会員
14	実行委員	東芝デジタルソリューションズ株式会社	大道 茂夫	個人会員
15	実行委員	三菱重工業株式会社	吉井 宗太	準会員
16	実行委員	電脳バンク株式会社	浦田 敏	準会員
17	実行委員	(公社)日本工学会	高木 真人	個人会員
18	実行委員	RRI アドバイザー	水上 潔	個人会員
19	実行委員	SIC 事務局長	出口光一郎	事務局員
	事務局	SIC 事務局次長	久保 忠伴	事務局員
	オブザーバ	東京電力パワーグリッド	熊野 広之	正会員
	オブザーバ	東京電力パワーグリッド	田中 勸	正会員